

金沢こころの電話

ほっとライン

No.127

金沢こころの電話
ご相談は… ☎ 222-7556

シルバーこころの電話
☎ 260-7272



今年度は、金沢こころの電話の50周年記念事業がもたれる予定であるが、2024年1月1日の能登半島地震及び、同年9月の奥能登豪雨災害の二重災害の復旧・復興が継続中であるということから、ささやかな記念式典と内輪の催しが行われる予定である。

50年の節目の 年度の始まりに想う

公益社団法人金沢こころの電話 会長 村田 進

本年度の重点目標は、①会員の賛助会員の増員を目指す、②相談員の質の向上および人材育成に努める(相談者のところに寄り添い傾聴に努める)③自殺防止に取り組む④被災者支援に取り組む、被災者支援が重点目標になっている。昨年末には、第49期認定式で、新たな会員の誕生を祝うかのように、被災者のための方支援の一環として、日本いのちの電話連盟主催の「いのち奏でるコンサート」が開催され、日本いのちの電話連盟の堀井茂雄理事長の講話の後、京都カルテットの4人の演奏者の演奏があった。被災者の電話相談に与って来た金沢こころの電話の会員への癒しのメロディが披露された。会員への心強いエールとなった。音の共鳴からも心を

令和7年度 定時総会報告



祝辞を述べられる
谷野明勝 少子化対策監

公益社団法人金沢こころの電話の定時総会が5月11日(旧県社会福祉会館大ホール)で、出席者、委任状を含め77名のもと開催された。総会に先立って、当番活動10年以上、当番回数200回以上の1名に会長より表彰状と副賞が贈呈された。来賓として石川県健康福祉部少子化対策監谷野明勝氏 伝え合うことの大切さを思い、後方支援の連帯意識が今後もつながることを願ったのである。私たちが拠って立つ創立当初の理念に立ち返り、能登の災害のPTSD(被災後ストレス症)の増加や、災害関連死の対策に、今年は一層焦点を当てて取り組む所存であり、その意味で、私たちが物心両面でサポートし続けてくださる関係者の皆様には、今後の一層の温かいご支援を希う次第である。

と小暮宏美氏、当法人相談役木越明子氏が臨席された。谷野氏からは「永年氏から無報酬で、色々な心の悩みを抱えている方々に対し耳を傾け、寄り添い活動を続けてきたことに敬意を表します。また、精神疾患や自殺者も増えている現状にこころの電話の存在に益々の重要性を感じています。」等、温かい言葉をいただいた。

2024年度 賛助会費・寄附金 感謝報告

(2024年4月1日~2025年3月31日)

金沢こころの電話の運営のために温かい資金援助をいただきました。心から感謝しご報告いたします。これからもご協力下さいますようお願い申し上げます。(敬称は略させていただきます)

【賛助会費】

○個人

池野裕子 石川誠子 泉 信次 伊藤美津子 今井宏和 上瀧 大 植松 茂 上田佳壽子
浦田早知・肇 遠藤陽子 大窪智子 大浜美映子 小野ツルコ 鍛冶ミヨコ 角谷澄栄 加藤佐敏
河合隆平 川浦幸光 木越トヨ子 熊野ユリコ 窪田幸子 越島正喜・伸子 紺谷博子 齊藤千代
坂本恭子 櫻井直子 笹木絵里 佐宗 功 佐藤順子 佐野勝俊 柴野南津 下田葉子 助佐直子
高木要子 高澤タマエ 高地松美 高山静子 武田陽子 橋 昌憲 田中千鶴 土家佳奈子 土橋登志子
釣見民子 出川常俊 出口房子 寺井亮三 問谷元子 徳沢愛子 虎谷順子 得永嘉昭 富田 寛
直江茂行 中島章雄 永原伸一郎 中村 哲 中山 栄 新田由美子 能登準一 狭間千代子 浜田典子
針田典泰 広瀬照代 福岡恒忠 福島 純 福島由貴 藤下順道 藤谷明子 二宮葉子 細野昭雄
松井 繁 松本れい子 水田美代子 宮村 泉 宮本道子 宮本奈津子 宮森恵子 村本高志 八木雅夫
やぶしたかよ 山口正雄 山下由美子 山野俊一 山村英子 山本静子 湯浅光吉 由水 充 吉川玲子
石丸順子 匿名の方

○法人・団体

石川県織物構造改善工業組合 石川県織物工業協同組合 (公社)石川県看護協会 (一社)石川県経営者協会
石川県商工会連合会 (一社)石川県鉄工機電協会 金沢商工会議所 金沢原糸織物商業協同組合
加賀建設(株) (医)浅ノ川桜ヶ丘病院 (医)長久会加賀こころの病院 (医)松原愛育会
(医)稲和会わせだクリニック 紺谷内科婦人科クリニック 和田歯科医院 (株)久世ペロース工業所
技研(株) (株)小林太一印刷所 (有)桜谷設備企管 JA石川県連 (学法)白銀幼稚園 第一電機工業(株)
ダイワ通信(株) (財)日本電信電話ユーザー協会石川支部 日蓮宗石川県第一部宗務所 (株)橋本清文堂
ホクショー(株) 北陸学院高等学校 妙応寺 司法書士 山本勝

【寄付金】 木越明子 土田陽子 山内ミハル 匿名の方々

※賛助会費の振込は下記口座へお願い致します。
▶郵便振替口座 00710-4-13987 「金沢こころの電話」

賛助会費・ご寄附等 合計 1,946,368円



編集後記

50周年を迎える年度。諸先輩方の歩みの積み重ねの結果、今があるとひしひしと感じる。これからも、電話を通して支援の継続に力を注ぎたいと強く思う。

創立50周年記念誌発行の時期と重なるため、「ほっとライン」は10月は休刊とし、来年2月が次号となる。周年記念事業の報告を次号でもさせていただきます。(記 T・A)



おことわり

研修会などの報告は、広報部会が依頼した会員が書いたものです。内容については個人の解釈もあつたことをご承知ください。

発行 公益社団法人
金沢こころの電話
事務局 〒920-0964
金沢市本多町3-1-10
電話 (076)222-7531
FAX (076)222-5352
http://kkd-ishikawa.jp/soudan
e-mail kkd@beach.ocn.ne.jp
編集 広報部会
印刷 (株)橋本清文堂

金沢こころの電話会員のためのいのち奏でるコンサート

講話&いのち奏でるコンサート(お話とカルテット)



認定式の後、日本のいのちの電話連盟 堀井茂男理事長(精神科医)と佐合事務局長が被災県である金沢こころの電話を応援したいとの主旨で来県された。堀井理事長の講話の後、「京都カルテット」のメンバー4名によるコンサートが行われた。園城三花氏を中心にいのちの輝き、尊さをテーマのトークコンサートは参加者の心に寄り添い、癒しとなりすばらしい時間となった。

♪ 京都カルテット ♪

1985年フルートの園城三花、バイオリンの釋伸司を中心にアンサンブル演奏を始め、2019年から「京都カルテット」として“いのちの輝き、尊さ”をテーマに疲れた心に寄り添い、いのちの大切さを思うひと時をともに過ごすトークコンサートを全国で展開している。

♪ 曲 目 ♪

- ブラハ「共鳴 Resonance」
- 「ブリティッシュグレナディアーズ」
- パッヘルベル「カノン」
- モーツァルト「フルートカルテット二長調Ⅲ」
- ピアソラ「リベルタンゴ」
- 加古 隆「パリは燃えているか」
- 「アメージンググレース」



能登半島地震から1年5カ月が経ち、被災地は着実に復興に向かっていく。と私たちが感じていたかもしれない。今回の研修では、今でもがれきや土砂が手付かずの地域があることや、先行きの見通しが立たず、不安を抱えて暮らす被災者の現状について、支援活動を交えたお話ができた。

現在も、仮設住宅には、多

全体研修

能登半島地震の支援と現状

- ◆日時：令和7年6月1日(日)
- ◆場所：石川県社会福祉会館F会議室
- ◆講師：田中純一氏(北陸学院大学社会学部災害社会学教授)

くの人が暮らしていると言ふ。国の復興対策や支援が充分届かないことも大きな課題だが、仮設住宅での不自由な生活が続く、人と関わる機会が少ないことが、孤立を深め、生きる希望を持たないことも生活再建を阻む問題ともなっているとのこと。

生活を立て直していく過程では、これからどこで、誰とどんな風に暮らしたいのか、自分の思いを、誰にも否定されることなく、自由に話せる場所があることも必要だ。人となりが話せる場所があれば、元気を取り戻し、夢や希望を持つことにもつながる。そのための対話の場を提供する「足湯ボランティア」の活動のなかで、全く話さない利用者にも無理に話させようというのではなく、相手が話せるようにな

るまで待つことも、支援のひとつとエピソードを交え話していただいた。

また、これからは、一人ひとりの声を聴き、個別の状況を把握したうえで、生活再建を支援する「災害ケースマネジメント」という支援の取り組みも始まっている。

住宅は生活再建の重要な要素のひとつだが、それだけでは被災者の豊かな暮らしの再建は実現できない。能登の暮らしのなかで育まれてきた、海・山・畑との関わりなど、その人が大切に生きてきた豊かな暮らしを支援する側が理解したうえで、再建を支援していくことが求められる。

被災者の「じゃがいもは待つてくれないから」という声を聴いて、苗を植える時期までに畑をきれいに整備し、支援したことで、元気を取り戻した事例が印象的だった。今後、被災者の方の声を聴くときに、今日学んだことを生かしていきたいと思う。

(N・K)

▼認定式では先輩方に今の気持ちや話を話さず場面があまりなかった。突然のことでも緊張しながら話し始めると、養成講座の際、特にお世話になった先輩が「うん、うん」と頷きながら聴いてくださって「ああ、見守って聴いてくださっている」と感じ、ホッと少し自信を持ち話すことができた。そして傾聴が人に与える力を実感する経験になりました。

人の心はその人にしか本当は分かりません。不安、迷いはありますが、相談者の心の内に少しでも近づけるように、丁寧な対応をしたいと思います。

(T・M)

▼認定式を無事に迎えることができた安心感と同時に、これから実践が始まる自覚が生まれ緊張感も感じています。



諸先輩方のお陰でスタートラインに立てることを忘れず、学んだことを最大限に生かせるように努力していきたいと思えます。そのためにも自分の課題はこの活動の継続だと思っています。活動する中で辛く感じることもや、悩むことが必ずあると思います。その

時は素直に自分の弱さも認め、同期のメンバーや先輩方に相談したいと思えます。それが相談員を継続できる秘訣だと思えます。今から表明するのも凶々しいのですが、その際はどうぞよろしくお願い致します。

(S・M)

▼AIの時代が到来し、人生の様々な悩みをAIが答えてくれるアプリや、SNSを通じて、リア友がいなくてもネット友として繋がる若者も増えている時代。

そんな時代でも変わらずに歩み続けてきた「金沢こころの電話」。志を同じくした諸先輩方の積み上げてきた実績が、今もこうして引き継がれている。常に新たな課題を見出しながらアップデートし、相談員としての資質を向上させているこのメンバーの一員として、認定を受けることができたことの喜びと重責をひしと感じています。

今年の49期生は少人数だからこそ気持ちひとつになれ、常に迷いながらもポジ

ティブに捉え、学ぶことの喜びやワクワク感を持って受講することができました。素晴らしい先輩と、良き仲間にも恵まれたことで、どれだけ励みになったかと感謝の念に堪えません。

これからの実践に向けて、今までの学びを活かしつつ、常に学ぶ姿勢を忘れず、相談者のこころに寄り添い、相談者が希望を見出す一助となれるよう精進して参りたいと思えます。

(N・H)

▼認定式を終えてこれから始まるのだと気持ちを新たにしました。

看護師の仕事の経験から、身体的病気は治療できても心が病気に向き合っていないと、回復をさまたげたり心をも病んでしまったり、治療する為には心が整っていないければというのでした。それが金沢こころの電話の電話相談員養成講座に応募しようと思っただけです。今の世の中、少子化や超高齢社会、子供や成人のネットやSNS

の害など、生きていくことが大変な時代だと思っています。電話を知り研修を受けて自分もかかわることができるとかと思ひ、受講を決めました。

研修中のロールプレイでは自分の傾向に気づき、相談を受ける難しさを実感しました。今後の活動もわからないことが多い不安なことばかりですが、先輩の方々に相談しながら学習を続け、電話して良かったと思ってもらえるようにつとめていきたいと思えます。

(S・K)



認定式を終えて ～49期生の皆さんの一言です～

第49期生 認定式

日時：令和7年3月23日(日) 場所：金沢勤労者プラザ音楽室